



Reincarnation Liberal Arts

転生自由七科

The Life Change

- 人生100年時代の命運転換プログラム -



session 1

不安な個人、立ちすくむ国家 人生100年時代のライフマニュアル

柳田：皆さん、こんにちは。

石崎：石崎絢一です。

柳田：ナビゲーターの柳田厚志です。そして、今回も七沢研究所から統括役員の大野さんに来ていただいています。大野さん、よろしくお願いします。

大野：よろしくお願いします。

柳田：はい、石崎さん。『クローズアップ現代』始まりましたね。

石崎：そうですね。背景がまさに。

柳田：セッション1お届けしていきますけれども、テーマはですね、これ、ほとんどの方、現代人、あるいは日本人の方が漠然と思っていることであろうというテーマなんですけれども。

石崎：そうですね。

柳田：ちょっと出していただけますか。「不安な個人、立ちすくむ国家、人生100年時代のライフマニュアル」ということなんですが、不安な個人というのはですね、やはり、今の現代人のキーワードじゃないかなと思うんですが。





石崎：そうですね。生き方が多様になっちゃったっていうのが一つありますね。あと、情報が多過ぎるんですね。昔ですと、もう本当に定年まで頑張って、寿命も短かったんで頑張ったと。で、俺もここまで来たかということで、あと何年かしたらあの世にお呼びがかかるということですけども、今ですね、例えば若くして簡単に成功してですね、もう一生分のお金稼いじゃう人もいるわけですね。それはそれで、生き方が今度、分からなくなってくるんですよ。

柳田：そうですね。

石崎：あとはうまくいかなかった人はいかなかったなりに今、リストラされて、じゃあどするのか、とかですね。

柳田：逆に、その100年生きてしまうということがリスクになっていると。長生きのリスクになるんですね。

石崎：なかなかね、これ、成功する人もそうじゃない人も、お勤めで定年までやりきった人も、なかなか羅針盤がないというかですね。

柳田：ですね。それを示していくのが今回のプロジェクトでもあるわけなんですけど、もう一つ、立ちすくむ国家というのが、その個人の不安に対して何もできない国家と。

石崎：そうですね。

柳田：いうことですよ。で、これちょっとですね、有名なものなんですけれども、不安な個人、立ちすくむ国家というのは、これは経産省の若手の方々が作った資料として、なんと100万部、100万ダウンロード以上されていると。

石崎：すごくやはりね、関心があるんでしょうね。

柳田：要は、戦後、高度成長期に作られた人生のすごろくというか、もう分かりやすいモデルというのが通用しない時代。

石崎：そうですね。皆さん、それはね、こちら、聞いていただいている方、見ていただいている方ですね、もうある程度、感づいていらっしゃると思うんですけども、本当に生き方が多様過ぎるのと、そこが明るくないんですね。見つけたとしても。





柳田：石崎さんもよくおっしゃっていたのが、先輩の背中を追ってきたけれども、最近もうないという。

石崎：そうなんです。私ももう「この人だな」という先輩がいなくなってしまう。僕、ビジネスやってるから、じゃあもう会社大きくして、社員 500 人、1000 人にして上場してとか、海外展開してって人見ているけど、すごいんですけど、その分、いろんなものが抜け落ちているんですね。その人たちの人生見ていると。だから、あんまり真似したくないし、要らないですよ。自分に 20 億円とか別に。体一つに。なので、やっぱりお金だけ稼ぎにきてるんでもないし、この世の中にですね。

なので本当に、指針がないからどうしようかなっていうところでずっとね、おりましたけど、今はこういう勉強もして、そうでないということですね。

柳田：なるほど。これ、全世代というか、20 代から 60、70 代の方も含めてですね、日本人の悩みじゃないかなと思うんですけども。

石崎：そうですね。

柳田：もう一つあるのが、この GDP の増加は必ずしも個人のしあわせにつながっていないという解説。

石崎：そうですね。

柳田：この GDP だけを上げようみたいな、新興国ではあるかもしれませんがね。

石崎：もう古いですね。大体、年収で 700 万円くらいになるとしあわせ度は上がらないっていう、もうこれ、データ出てますんで、要は経済成長がですね、人間の幸福をもたらすものではないというのは、もうこれ明らかですよ。

柳田：そうですね。特に先進国ではですね、GDP 増やしたところで個人のしあわせは変わらないんじゃないかと。

そういったこともあってですね、こういう時代の背景もあって多くの人に広がっているんだろうと思うんですけども、それをわれわれは更に違う階層というところから





やっていくわけなんです、大野さんは、こちらの出てるような個人の悩みとか、そこに対して何もできない国家に対してどういう見解ですか。

大野：まず、この不安というのはですね、どっから来ているかと言いますと、本当の情報に触れていないということが原因なんですね。結局、何が正しいとかですね、何が本当かっていうのが分かっていないので、力の発揮のしようがないわけですね。

ほとんど世の中、出ているのは嘘の情報というか、ガセネタというかですね、ほとんどなわけですし、ですから、何か行動するにしてもですね、この情報、間違っているんじゃないかと思いつつビクビクやることになりますし。

将来、ストーリー描くっていう場合もですね、正しい情報が入ってきて描くのであれば確信が持てますけども、そもそも、まともなというかですね、本当の情報がないんですね。だから不安なわけですね。で、国家もそうですよね。

日本っていうのは非常に諜報機関っていうか、弱いつていうのがありますが、正しい情報が入ってこないのが正しい判断ができないっていうのが今の日本のあり様なわけですね。

正しい情報が入ってこない時代においてですね、本物の情報を提供しようと。これ、ある種、危険も伴いますが、それをしたいと思って活動しているわけです。

石崎：こういう提案すると、批評批判を多分、言う人が現れるわけですね。だけど、自分のやっぱり感性、信じてほしいんですね。人さまがどうっていうのが。人さまのこれ、フィルターかかっているんで、やっぱり自分で見極めるっていうことしないと。

柳田：なるほど。お二人の意見、ともに分かるんですけども、やはり何か外に正しい答えがあるんじゃないかかっていう中で不安になっている個人がいて、でも自分を信じろというところですよ。で、更に言うと、大野さんが言うのは、正しい情報に触れてないというところなんですね。

石崎：そうですね。自分を信じろと言っても、自分にそれだけのですね、訓練というかですね、自分の中に体系立てられた判断基準がないと、やっぱり判断できないんですよ。





柳田：そうですね。

石崎：ここが今、一番難しいところなんじゃないかなと思うんですね。だから、お金持ちになったら全て成功してですね、幸福になるって結構多くの人が信じているみたいですけど、断言しときますけれど、はっきり言ってそうならないと私は思いますし。

さっき言ったように、もし30歳で10億円とか20億円稼げちゃって、どういう人生展開できますかって話ですね。一生食えるわけですね。本当に何かしたいことがない限り、もう抜け殻みたいになる人、結構いるんでね。

柳田：そうですね。そこに情報も必要になってくるってことですね。

大野：やっぱ情報がないと、一個人として自分の生き方というかですね、生き様であったりストーリーができないんですよ。そうしますと、いわゆる人の意見で動いてしまったり、あるいは周りのガセネタで動いたりするってことになりまして。

本人もですね、実はそれを良しとしてないんですよ。「間違っているかもしれない」と思って動いているんですけども、それ自体が不安な状態でありますし、しっかりストーリーができればですね、仮に間違っていたとしても、自信を持って自分はこうだと言ってですね、できるし、間違えたのまた変えればいっていいだけなんですけども。

それができずに、非常に危ういところをプカプカ浮いてるようなですね、そんな感じがあるってことですね。

柳田：こちらもベストセラーになっていまして、世界の著名人が絶賛している書籍ですけども、『サピエンス全史』というものですね。こちら、書いている通り「フィクションを信じる力が人類を特別な生物にした」ということなんですけれども、こちら、大野さんのほうから解説をお願いします。

大野：物事の真理をですね、言い放っているっていうところがありまして、人類っていうのはフィクションですね。あるストーリーを仕立てて、それに向かって進んできたっていう流れがありますけども、それによって進化してですね、ここに書いてあるように、特別な生物っていうか、動物になったわけですけども。





逆にそのストーリーを作る力がなければ、退化していくわけですね。もしくは、外界の状況に合わせられずに生きていけなくなる可能性もあるわけです。

ですから、この「フィクションを信じる力が」っていうのがありますけども、言い方を変えれば、今申し上げましたように、このストーリーを作る力ですね。で、先ほど問題になっていたのは、本物の情報に触れていないがために自分のストーリーが作れないという。で、これが不安を呼んでいるってことを言った次第ですけども、まさに、その原因についてですね、この『サピエンス全史』の中で書かれていると。

柳田：なるほど。

大野：世界の著名人がね、いろいろ読んでいるそうですけども、読んでいるということはやはり、そうした方々も不安なんじゃないかということが言えるわけですね。

柳田：この先が分からないということですかね。

大野：そうですね。確かにこのフィクションを信じればいいと分かったとしても、じゃあ、これからどういうフィクションを作っていくんだっていう、それが分からないんですね。

柳田：なるほど。

大野：だからいろんな、私の研究所にですね、世界中からいろんな方々来ますけども、それを教えてほしいってことですね、来るわけです。

柳田：ということで、今の世の中の漠然とした不安見てきましたし、世界的な流れであるとか、そういったことも見てきましたけれども、まとめるとこういうことですね。

人生 100 年になってしまう。初めて経験するこれだけの長寿社会。多くの方ですね、こういう表面的な夢であるとか、成功であるとか、しあわせ像を追い求めてきたわけなんですけれども、それでも何か違うんじゃないかと。





石崎：そうですね。私たちからすると、まだ違う世界っていうのがあるのが分かっているものですから、非常に表面的に見えるんですね。これはこれで面白いんですけども、もっと深い世界やらないと、やっぱり表面的なものしか手に入らないような気がやっぱりしますね。

柳田：なるほど。大野さん、どうでしょうか。

大野：ある事業で成功するとか、あることに受かったとか、いろんな人生の局面がありますけれども、大体、世の中のノウハウというのはですね、その一部分の話をしているわけですね。

例えばこれで成功しましょうとか、これしましょうっていうのがあって、仮にじゃあ、それがうまくいったとして、その点の部分ではうまくいきますけども、人生全体が成功するかというところと全く別問題ですね。

ですから、ストーリーに基づかない点の成功っていうのをですね、これまで一生懸命やってきたわけですね。で、やっぱり結果、あんまりうまくいかなくて、お金も稼げなくて、こんなはずじゃなかったってなりますけども、そもそもストーリーが間違えているんで、あるいは作ってないのでそうなるわけですね。

柳田：特に日本だと、本当にそういう点の成功というかですね、そこに、点の成功の部分に成功した人が本を書いたりとか伝えたり、その部分だけを伝えたりっていうが多いですね。

石崎：そうですね。テクニック系の人とか、心系の人とかですね、旅しているとかですね、なんかみんなバラバラなんですね。全てやっぱ網羅してほしいんですけど、やはりそういう教えは非常に少ないような気がしますね。

柳田：なるほど。今回、ライフチェンジはそこにチャレンジしているというか。

石崎：そうですね。

柳田：ということですよね。そしてもう一つのキーワードとして、AI というものですね。人工知能が自分たちの仕事を取ってしまうんじゃないか。あるいは、お金はどうなってしまうんだろうかというようなですね、不安あると思います。皆さんも。





石崎：AIがですね、特に日本ですと50%以上のね、仕事を奪うっていうこともまことしやかに言われていますし、健康ですね。健康もあと15年くらいすると、あらゆる病気が、全部ではないにしろですね、治せるようになってしまって、結果100年くらい生きてしまう時代が来るっていうね、ことにもなってきていますし。

そういう中でですね、特に仕事を奪われると人間の生きがいかとかですね、あと、食べなくなってしまうんじゃないかとかですね、そこもあります。一方で今、ベーシックインカムを導入しましょうっていうことがあるんで、本当に劇的にですね、人生設計というか、人生の道筋が変わってくると思うんです。

柳田：そうですね。

石崎：携帯がね、スマホに一瞬で変わったように、やっぱりまだ先だろうと思っていたら大間違いで、ひしひしとこういう時代が迫ってきているんですよ。

柳田：そんな時代にどうやってわれわれ生きていくか、あるいはAIと付き合っていくか。

石崎：そうですね。

柳田：というのは多分、全人類の共通のテーマになってくると思うんですけども、大野さん、研究所のほうではどういう見解だったりするんでしょうか。

大野：まさに今、ここに出てきましたように、今、現代人の悩みっていうとですね、仕事とかお金とかいろいろ人間関係とかですね、あつたりしますけども、これも先ほどのお話に絡んできますけども、その全体像を俯瞰すればですね、問題が消えてしまうんですね。

例えばお金とか仕事とかっていうのも、短期的といいますか、点の部分で見ると困った、困ったになるんですけども。ところが、正しい情報を得て、本物の情報に触れるとですね、しっかり自分のストーリーが描けますので、そういった不安っていうものがですね、このストーリーの中に全部消えてしまうといいますか。

むしろ、その不安自体が自分のストーリーのための材料にすらなるんですね。ですんで、そういうものの見方。物事の階層性っていうのがあるんですけども、もう一つ上の階層に立ってものを見るとですね、意外と答えは簡単に出てくるっていう。





柳田：ということはですね、ずばり聞きたいんですけども、今後、AI時代になっていっても、われわれ、不安になる必要がないんでしょうか。

大野：結局、不安になっていても、その不安になっている自分っていうのを俯瞰できればですね、不安は消えるっていう、そういうものの考え方がありまして。

繰り返しになりますけども、仕事とかお金とか健康とか、いろんな悩みがありますよね。で、それを一部分の問題として捉えるとそこに凝り固まってしまうんですが、その全体を俯瞰する位置にいてですね、自分のストーリーの中に乗っけていくと、全く問題が問題ではなくなると。要は階層性の違いっていうことになるんですね。

柳田：ということで、ここまでですね、今の個人が抱える不安であるとか、国家のジレンマ見てきましたけれども、じゃあライフチェンジっていうのを今回やっていますけれども、答えはあるのかと。答えはあるんですか。

石崎：答えはあると思いますね。

柳田：これまでもですね、話の中でもストーリーを描くとかね、本物の情報に触れるっていうのがありましたけれども。

答えは、飲むことではなくてですね、こちら。自分の人生を生き切ること、ということですね。これ、人生を「生き切る」というのが、ちょっとよく言われていることと違うと思うんですけども、どういうことですか。

石崎：自分が捉えているのはですね、例えば自分にエネルギーの容量みたいなものが、意識の容量っていうものがあるとしたら、それを全部使って生きるっていうことなんですね。これ、簡単なようで実はできないんです。

柳田：生ききっているかどうかっていうと、そうですね。

石崎：そうなんですよ。で、やっぱりその意識、何回も意識の話ししていますけれど、意識、ここで止まっている人も結構いるんですけど、どんどんいくんですね。これ。どんどん広げながら、どんどん実社会でそこを使い切らないといけないんです。





そうするとまた、現実で見えているあれが変わってくるんですよ。見えていたものがころっと変わるんですよ。

柳田：生き切るとは何かというところで、こちら。全てを網羅して、全てをコントロールする世界へ行くということなんですけれども、大野さん、一言いただいてよろしいですか。

大野：全てをやり尽くすっていうかですね、本当にもう全体性になりきって生きるっていう、そういう意味合いがあるんですけれども、やはりこれはですね、先ほどお話ししましたように、もちろん人間っていうのは体一つしかありませんから、それぞれ自分のフィクション、もしくはストーリーに基づいて生きるわけですよ。

ですから、そういったストーリーを生き切るか、いわゆる演じきれんかっていうところが重要なんですけれども。そのためにはですね、やはり正しい情報をまんべんなく入れて、ストーリーを構成して、そこに全力投球するっていう、そういう生き方が求められてきまして。

その考えからしますと、実は人生、普通は1回っていうふうに思うかもしれませんが、ストーリーを二つ出来れば二つの人生を生きることができますし、これを三つ、四つにすることも可能なわけですね。

この与えられた時間を生き切るっていうことをですね、考える上で、今一度、ご自身にストーリーがあるのかどうか。また、全体性を網羅した上でストーリーを作っているのかどうか。正しい情報のもとでやっているのかどうかっていうのをですね、客観視していただくといいのかなと思うんですよ。

柳田：言葉で言うとですね、この説明になっていますけれども、大変、なんか難しそうだなっていう気もするんですけれども。

まず現時点ではですね、生き切るんだということを皆さんにお伝えして、この後ちょっと見ていただきたいなと思うんですけれども、「そのためには」って書いているのは、つまり、だからこそライフシフトだけではなくてライフチェンジの必要性があるということですよ。

石崎：そうですね。思考で乗り切ろうとするんですよ。多くの方は。経験とか学んできたことで、なんとか人生を扱う。自分なりに扱おうとするんです。なので、日本人





なんか面白いんですね。こうやって景気が悪くなってくると、圧倒的に公務員とかになりたがる人がガンと増えるんです。

柳田：そうですね。

石崎：けれど、自分の意識がですね、広がると、例えば起業家になろうとかですね、世界飛び出そうとか、いろんな選択はあるんですけど、計算でプラスマイナスでやっちゃうと、公務員になるのが一番安全だっていうふうに。これ、生ききっていることになるかっていう話です。

本来、どこかに飛び出したらその人に合ったすばらしい世界があるかもしれないのに、計算の世界で公務員、安全かもしれないです。ごはんは食えるかもしれません。楽しいですかって今度、話ですね。魂はワクワクしていますかっていう話が出てくるわけです。

柳田：その全てを網羅してというところが、その使い切っていないんじゃないかというのがありますね。

石崎：そうですね。広い意識の中から、今起きていること、不安なこと、希望、それをですね、手当するとそのプラスマイナスの世界から出れるわけですね。そうすると、ものごと全て適切に処理ができるっていうふうに、私はそういうふうを感じているっていうか、実際そうしているものですから。

柳田：なるほど。

柳田：ライフシフトじゃなくて、もうそれはライフチェンジということですね。そして、ライフチェンジとは何かということで、ここで一つの定義をしていきたいんですけども。

こちら、成功を超えた成功。360度の豊かさ、しあわせ、成功ということなんですけれども、こちら、ちょっと大野さんのほうから解説よろしいですか。

大野：先ほどのお話からしますと、ライフシフトっていうのはいわゆる一つの人生を扱うっていう意味になっていまして。

このライフチェンジっていうのは、いわゆる一つの人生だけでなく、それこそ自分の





前の人生、その後の人生までも視野に入れたチェンジをしようと、そういう意味になっているんですね。ですから、成功の定義もですね、この時代の成功と100年後の成功って当然違いますし、100年前の成功っていうのも全然違う定義だったはずですね。

このライフチェンジっていうことを実際に行っていきますと、どの時代においてもですね、間違いなく成功と言える成功に、その世界に入ることができるんですね。

要は、先ほど一過性の成功っていうのが必ずしもですね、人生を豊かにするとは限らないと言いましたけども、それは見方を変えると全然成功ではないんですよ。人生における失敗ですらありえるわけですね。

ところが、一旦、視野をですね、この自分の人生全体というものからですね、前の人生、後の人生というふうに可能な限り広げていきますと。本当の成功とはですね、何かってことが分かるんですね。ですから、この360度というのはですね、現在、過去、未来どこを見ても、誰もが成功と言える成功を体験できるっていうんですね、そういう意味合いになってくるわけですね。

柳田：なるほど。

大野：難しいですかね。

柳田：いやでも、壮大ですね。もちろん、皆さん分かっていると思うんですけども。

大野：今回、このテーマっていうのはですね、語弊あるかもしれませんが、これまで世界のいろんな宗教とかですね、特に仏教もそうですけども、解決できなかった問題を解決するっていう、そういう中身なんですね。

ですから、本当に短い時間で簡単に説明できるものではありませんけども、この雰囲気っていうかですね、全体的な概念っていうか、掴んでいただくと多分、皆さん、進化されると思います。

柳田：なるほど。そういった意味も込めて、生き切る。そしてライフチェンジというキーワードを使っているということです。雰囲気を使っているわけではなくて、本当に深い意味があって使っているということなんですから、さっきちょっと大野さ





んの話に出ましたけれども、今の私たちというのが自分だけの能力、才能によってできているか。考えるともちろんそうではなくて。

石崎：そうですね。

柳田：先祖の力、あるいは命運も関係しているんじゃないかということですよ。今世だけじゃなくて。

石崎：そうですね。

柳田：そういった視点から今回、ライフチェンジということでお伝えをしているわけですね。著名な方もですね、こちら、「成功するかどうか 90%、運」と、松下幸之助さんとかですね。

石崎：そうですね。

柳田：やっぱり命運とか運ってというのは。

石崎：本物の成功者の人ほどですね、やっぱり偶然が積み重なったとか、運が良かったとかですね、そういうことをおっしゃいますよね。

柳田：ですね。大野さん、こちらの運であるとか、あるいはその前のスライドの命運っていうところに対して、今回のキーワードでもあると思うんですけども。

大野：ここ、非常に大事なところですね。冒頭からですね、正しい情報がないとストーリーが作れないと言ってきましたけども、まさに、この「成功するかどうかは 90%が運」だとかですね、いわゆる、成功には全然目に見えないものが隠されているってことがあります、これがまさに本物の情報ですね。いわゆる、本物の情報ってというのは、裏にありますよってということが本物の情報ってということですよ。

つまり、成功ってというのは目に見えるものだけではなくて、命運ですとか、運ですとか、あるいは人間の意志エネルギーとかですね、いろんなものが隠れているわけですけども、その隠れているという情報こそが本物の情報だってことなんです。

ですから、この本当の情報を知っているかどうかによってですね、その方のストーリーにも雲泥の差が出ますし、逆に言いますと、そういったことを知らないとストーリー





一すらできないということになってしまうわけですね。

柳田：非常に壮大というか、すごい話ですよ。

石崎：そうですね。

柳田：そして今回ですね、すごいのが、ライフチェンジとは命運すらも変えることだということなんですけれども、これまたものすごいこと言っていますけれども。命運転換法と、命運転プログラムですね。というふうに言っていましたけれども、これを扱っていくということですね。

大野：命運っていうもの自体が一つのストーリーになっていきますよね。

柳田；そうですね。

大野：ですけど、これからやろうとすることは、一生のうちにですね、何回も生きると、生き切ると。つまり一つのストーリーではなく、1回の人生で三つも四つもですね、好きなだけストーリーを生きようというのが一つテーマにありますので、逆に言いますと、命運を超えることができなければそうしたことはできないわけですね。

柳田：そうですね。今回なんか僕たちは、生まれてきて、運命、命運を持って生まれてきているというふうな認識なんですけれども、その一つのストーリーだけじゃなくて、三つも四つも生きようということですね。そのためにはもともとの命運すらも変えていくと。

大野：そうですね。

柳田：いうことですよ。

大野：あるいは早く終わらせるとかですね、いうことになるんですね。

柳田：もう一つ、この出ているスライドを見ていただくと、人は81回生まれ変わるということが出ていますけれども。

大野：詳しくは次回のセッション以降でお話ししたいと思っていますけど、私どもの研究で大体81回と。で、これは経験しますと、いわゆる4次元界っていうのを抜け





るわけですね。で、抜けまして、また新たな人生を選べるという。

もしくは、選ばなくてもいいんですけども、そういった次元に入るっていうことになっていまして。逆に言いますと、人間ってというのは焦らなくてもですね、81回生まれ変わると次の次元に抜けるようにはなっていまして、ですけども、何を言いたいかといえますと、そんな81回も生まれ変わってらんないんで、この人生のうちに、場合によっては全部経験できたらいんじゃないかと。ある種、究極の目標にはなるでしょうけれども、実際、それをしようとするのがライフチェンジでもあるわけですね。

柳田：なるほど。で、それはまた地球であるとか、この世の中全体を考えた時に、そうやってどんどん、どんどん生ききっていく人が増えることが、地球にとってもいいってことですよ。世の中というか、社会にとっても。

大野：そうですね。生き切るってということによりましてどういうことが起きるかといえますと、ものごとをですね、より俯瞰できるようになるんですね。中途半端に生きてると、同じ階層に閉じ込められますけど、生き切るという覚悟で生きていますと、意外と自分の状態というのをですね、それこそ、鳥が下を見るように客観視できるんですね。

で、もし皆さんがそういう状態で生ききってくださいるのであれば、客観視の状態に自動的に入りますので、そうしますと、いかにこの地球の環境が病んでいるかとかですね、日本っていう国がいかにまずい状態にあるかとかですね、いろいろ、普段見えないものが見えてきますから、当然それを良くしようっていう考えに変わるわけですね。

柳田：多分、ご縁があつてこの映像を見てくださっている方っていうのは、そういう資質があるというかですね、からこそ出会っているんだと思うんですね。

石崎：そうですね。

柳田：この情報にも。ですから、ぜひですね、今後見ていただきたいと思うんですが、今回、セッション1の結論としたら、こちら、挙げていますけれども、過去も未来、過去世、未来世も含めて今世の、今生の人生を生き切ることが、ずっと見てきました一連の不安とかを消し去ると。本当の意味での成功、しあわせにつながりますということですね。





石崎：そうですね。

柳田：ということで、かなり1回目からですね、ディープにお届けしてきましたけれども、更にですね、本当はね、もっともっと言いたいことがある中で、お二人にもセーブしてもらいながらね、言ってもらいましたけれども。

こちら、体験セミナーというのを12月に予定しております。こちら、『転生自由七科、THE/LIFE CHANGE、人生100年時代の命運転換プログラム』ですね。『体験セミナー、そしてプログラム説明会』ということで、本編のプログラムというのもご用意しているんですけども、そちらの説明会も兼ねた体験セミナーというのを、この12月の5日、7日、9日の日程で行いますので、こちらですね、お二人にちょっと一言ずつ聞きたいんですけども、ぜひ来ていただきたいと思うんですが。石崎さん、どうですか。

石崎：私の場合はですね、この現世ですね。現世というか4次元界。特にビジネスを通じてやってきた中でですね、具体的に起きたこととかですね、体験したことなんかをまずご説明したいですし。

皆さん関心の高いお金のこととかですね、一緒にやっている他のもので資本主義を抜けるっていうね、勉強会もやっていますけども、それがですね、どのようにして抜かれるのかみたいなこともちょっと、全部は言えませんがね、そういったものにも触れていきたいなというふうに思いますね。

柳田：なるほど。石崎さんは表と裏、両方分かった上で表の部分とかですね。

石崎：そうですね。

柳田：そういった話を分かりやすくしていただきたいなと思います。そして大野さんからはどうでしょうか。

大野：命運の転換っていうことですけども、一言で言うと簡単な概念なんですね。どういう概念かという、自分が他人になれば命運、変わるんですね。自分が自分である以上は命運は変わらないんですけども、自分が他人になれば命運っていうのは変わりますよね。

それ、4回変われば4回分の人生になりますけども、ただし、他人に変えるためには





ですね、実は自分っていうものをよくよく知ってないといけないわけですね。昔、ソクラテスが「汝自身を知れ」とかね、言ったと思うんですけども、自分というものがどういう人間か、存在かが分からないと他人にはなれないんですね。だからこそ、生き切るっていうことが大事であって、自分をよく知ることができるわけですね。

柳田：なるほど。

大野：で、自分をよく知ることができると、そこで初めて他人になれるんですね。なりすましていうわけではないんですけども、そうなれば命運は変わります。ですから、そのための手法というものを今回、このセミナーでですね、ご縁のある方にはお伝えしたいと思っています。

柳田：なるほど。こちら、体験セミナー来ていただいて、更にですね、深く学びたいという方には、本編のですね、のほうのご案内も特別にさせていただこうという予定になっています。ということでですね、ご縁ある方はぜひですね、直接来ていただいて、石崎さん、そして大野さんも直接来たら顔が見えるということだと思いますので、来ていただきたいなと思います。

そして、このセッションですね。3回、4回ですね、にわたってお届けする予定なんですけど、きょう、1回目お届けしました。次はですね、今回出てきたテーマでもある、命運を変えてしあわせに生き切るという方法をまた、オンラインで届けられるギリギリのところまで聞いていきたいというふうに思います。ということで、また次回以降もお二人ともよろしくお願ひします。

大野：よろしくお願ひします。

柳田：ありがとうございます。

大野：ありがとうございます。

石崎：ありがとうございます。





最後までお読みいただき、ありがとうございました。

session 1 をご覧いただいたのコメントをお願いします。

今回は以下の質問への回答をお願いいたします！

出来れば全てコメントいただきたいですが、何でも結構です。

まずはコメントすることが大事ですので、ほんのちょっとでも投稿してください。

1, Session 1 でのあなたの学び

2, 石崎さん、大野さんに聞いてみたいこと、 2人へのメッセージ



コメントいただいた方には、下記をプレゼントいたします。

Session 1

「不安な個人、立ちすくむ国家人生 100 年時代のライフマニュアル」完全版

編集版ではお伝えすることのできなかった

高い階層から俯瞰した地球、日本が置かれている状況や、

「THE LIFE CHANGE」の真意などについて、深い部分まで言及した完全版です。

さらに!!

大野・石崎・柳田が本音を語った

『スペシャル対談動画 THE LIFE CHANGE SIDE-B』

本編では語ることのできなかった

世界を見据えた「LIFE CHANGE」プロジェクトの壮大な全貌もお話しています。

何事も表と裏があります。Session が表面なら、この対談はまさに裏面の B 面です。

☆コメント、コメント特典のご請求はこちらから☆

⇒ http://the-life-change.jp/fn/?page_id=364

